

傍聴者からの声



朝日 福田幸輝 さん

「隠居の呟き」

久しぶりに議場に入った。凜と張り詰めた場内空気の中で、折りしも町長が初の施政方針を熱弁されておりまし

いやしくもこれに従事する者は禄位名利の念を絶ち、僅かに飢寒を免れるだけを生涯の限度とするのでない限り、その功を全うすることは出来ない」との教示。以って銘すべきと思えるのです。

もはや真摯で真面目な田舎の住民自治こそがこの国の政治を矯正する力とも、声とも思える…。

自治体執政者と議会の更なる奮闘を切望するものです。不埒ながら傍聴席でそんな事を想っていました。

思い浮かぶのは、二宮尊徳翁の語録「全功の道」です。いわく『国を興し民を安んずる事は大業なり、名利を追う輩の企て及ぶところではない。』

議会ニュース



長屋副議長が全国町村議会議長会から表彰される



全国町村議会議長会から長屋副議長が表彰を受けました。長屋副議長は佐呂間町議会議員として15年以上在職し、地方自治の振興に寄与された功績に対して表彰されたもので、3月10日の第1回定例会開会前に先立ち表彰状が伝達されました。

あとがき

昨年10年来病んでいた腰のヘルニアの治療の為札幌の病院へ入院、一ヶ月のつもりが三ヶ月になってしまった。思うように動けずイライラして町を眺める。そこには人も車も夜も眠らぬ街がある。

ようやく退院だ。帰省の車窓より改めて目にしたものは、山里に進むほどに数を増す廃屋とポツリと寂しげに立つサイロ、停車する毎に列車から減ってゆく人の数、ヨタヨタと降り立つ駅に、「シマッタ」帰る足がない。バスの時刻を調べていない。3時間待ち、身体の中を高齢者の想いが言い様のないもどかしさとなつて通つてゆく。全てにつながらぬこの格差、国政はどう埋めていくとこのか。

今、雪解けの進んだ日溜りにふつくらと咲く福寿草に安らぎを覚えながら、ふと雪に映えるこの花のように、町の一人一人が自己発信しては…。

明るい元気な街にならないかなあと、想うものである。

(広報特別委員 土田 剛)

平成21年5月発行

発行 佐呂間町議会 編集 議会広報特別委員会

〒093-0592 北海道常呂郡佐呂間町字永代町3番地の1 TEL 01587-21291 FAX 213368 (役場兼)